資料１１

日本ジオパーク再認定審査現地審査報告書

ジオパーク名:桜島・錦江湾ジオパーク.
現地審査員: 菊地俊夫、杉本伸一、岩本直哉

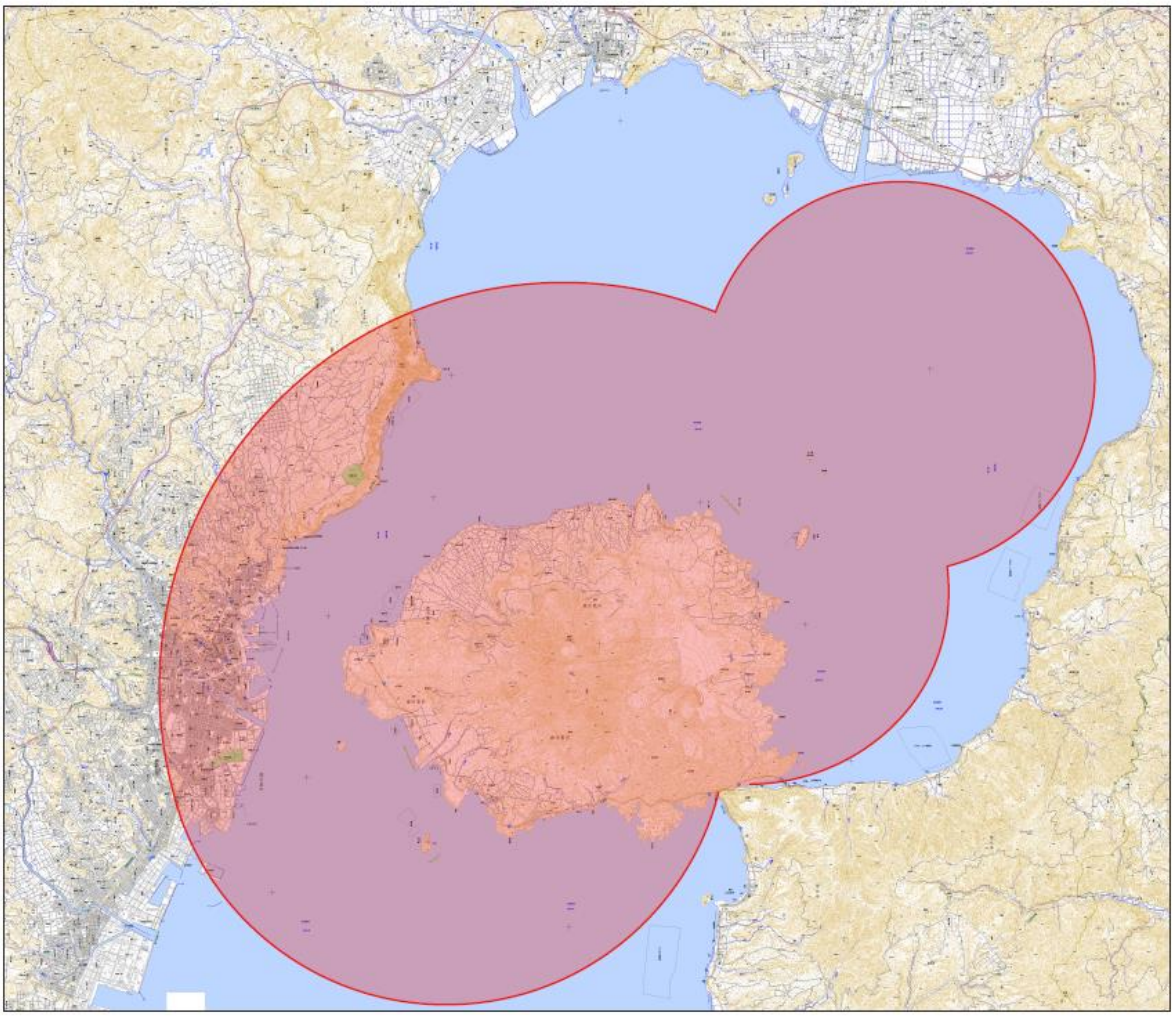
A.　基本情報

面積	３２３ｋ㎡
人口	５９７，９３２人（鹿児島市人口）
日本ジオパーク認定年	２０１３年９月
前回の審査日程および審査員名	２０１３年７月２９日～３１日 ・阿部　宗広氏（一般財団法人自然公園財団専務理事） ・松原　典孝氏（山陰海岸ジオパーク推進協議会研究員） ・畑中　健徳氏（勝山市ジオパーク推進協議会）
ウェブサイト（URL を記載）	桜島・錦江湾ジオパーク専用ウェブサイト http://www.sakurajima-kinkowan-geo.jp/
ソーシャルメディア（すべて列記）	・facebook： https://www.facebook.com/SakurajimakinkowanGeo/ ・twitter　：https://twitter.com/sakurajima_geo ・instagram　： https://www.instagram.com/sakurajima_geo/

B.　提出書類一覧

・JGC に提出した書類
　再認定審査現況報告書（本文及び添付資料）
　推進計画（マスタープラン）
　2017_マスタープラン進捗管理
　桜島・錦江湾ジオパークファーストガイド
　桜島・錦江湾ジオパークガイドマップ
・審査期間中または審査後に直接審査員に提出した書類
　収支決算推移（2013～2016）
　霧島・錦江湾国立公園錦江湾地区 50,000（桜島・奥錦江湾地区)
　小学理科副読本「見て・感じて・確かめよう！　大地のつくりと変化」
　認定ジオガイドガイド実績
　桜島・錦江湾ジオパーク基本情報

C.　地域の地図



※赤いエリアが桜島・錦江湾ジオパーク

D.　前回の指摘事項に関する取組・改善点

【指摘事項 1】看板の整備が不十分なので整備する必要がある。近日中に整備が間に合わない看板については早急にジオパークロゴマークの貼り付けを行う。（早急に対処すべき事項）

〇2013 年度から 2014 年度にかけて、ジオサイト（20 か所）、関連施設（5 か所）及び鹿児島港フェリーターミナルに記名サイン、説明板を設置している。特徴的なのは、記名サインはここがジオパークのサイトであることを示す視認性の高いものであり、その横に設置された説明版はコンパクトに設計され、自然景観や環境に配慮されていることである。

　デザインはトータルデザイン戦略に沿ったもので、桜島・錦江湾ジオパークのロゴマークやそれぞれのジオサイトのストーリーに対応したオリジナルキャラクターを掲載することで、ジオパークの看板であると一目でわかる視認性の高いものとしている。また、説明文は平易な文章としているほか、サイト名は日、英、中（繁体・簡体）、韓の 4 か国語、説明文は日、英の 2 か国語に対応している。

　以上の事により、指摘事項 1 は改善されているといえる。

【指摘事項 2】ジオパーク専用のホームページが未整備なのでこれを作成すること（早急に対処すべき事項）

〇2015年度に専用WEBサイトを作成している。デザインについても、トータルデザイン戦略に沿ったものとしており、他の広報ツールと統一性を持たせているとともに、日、英、中（繁体・簡体）、韓の4か国語に対応している。
　また、桜島の火山活動の状況についても随時発信している。また、ホームページ以外にも、Facebook・Twitter・InstagramなどＳＮＳを活用した情報発信を行っている。
　以上の事により、指摘事項2は改善されているといえる。

【指摘事項 3】姶良カルデラや錦江湾の成り立ちについての案内看板やパンフが不十分である。特に、錦江湾周辺の成り立ちを理解する場所として優れている寺山展望台には早期の案内看板設置が望まれる（早急に対処すべき事項）
〇寺山公園の説明板には、錦江湾が火山の巨大噴火により形成された海であることを記載している。また、2013年度に桜島・錦江湾ジオパークファーストガイド「火山と海の大冒険」、2014年度に桜島・錦江湾ジオパークガイドマップ「火山と海の冒険手帖」を作成し、ガイドマップでは、姶良カルデラや錦江湾の成り立ちなどの地形・地質的背景を分かりやすく解説している。
　以上の事により、指摘事項3は改善されているといえる。

【指摘事項4】ジオパークをより理解したガイドを増やす。推進協議会公認のガイドをつくるなど、ガイド体制の強化に努めること。（中、長期的に対処すべき事項）
〇認定ジオガイドについては、2015年度に養成講座を実施し、現在20名が認定されている。2016 年度以降は、ガイドのスキル向上を図るため、フォローアップ研修を行っている。認定ジオガイドは、独自でプロのガイドとして活動をしているほか、NPO 法人桜島ミュージアムが実施する溶岩ミニトレッキングにおけるガイドや、新たなガイドプログラムを企画実施するなど様々な活動を進めている。
　以上の事により、指摘事項4は改善されているといえるが、今後はガイド組織の設立などさらなる運営体制の強化が望まれる。

【課題５】継続した地域住民へのジオパーク普及活動、特に鹿児島市街地でのジオパークの理解と活動への支援を取り付けること、特に姶良カルデラや錦江湾の成り立ちについては、まだ市民に広く普及しているとは考えにくいので、セミナー等を通じて普及に努めること（中、長期的に対処すべき事項）
〇課題４で述べた人材育成のほか、地域住民へのジオパーク普及活動として、ジオツアーやジオ講座等を実施するとともに、地域住民等とのワーキンググループにより企画・実施したイベント「灰フェス！」を開催している。また、様々なイベントと連携し、ブース出展を行うなど、PRの機会を創出することで地域住民へのジオパーク普及に努めている。
　特に姶良カルデラや錦江湾の成り立ちについては、ジオツアーやジオ講座において解説を行っているほか、ジオパーク以外が主催するイベント等においても、クイズラリーやワークショップ等を通して、楽しみながら学べるよう工夫している。　以上の事により、指摘事項５は改善されたといえる。

【課題６】現在、噴火口から半径10ｋｍ圏内が桜島の影響を物理的かつ精神的に強く受けている地域ととらえジオパークのエリアにしている。今後ジオパーク活動を進める中でジオパークエリア外の住民が桜島・錦江湾を強く意識し、参画したいと要望があればエリアの修正を検討するように（中、長期的に対処すべき事項）
〇エリア外の住民からの参画要望はなかったが、2014年度に姶良カルデラ周辺地域（姶良市、垂水市、霧島市）のジオ資源等の調査を行い、修正エリア案について検討を行っている。また、ユネスコ世界ジオパーク認定に向けた霧島ジオパークとのエリア統合を見据え、

霧島ジオパークや、姶良カルデラに由来する地形地質を持つ、姶良市、垂水市と協議を進めている。

E.　ユネスコ世界ジオパーク運営指針基準の検証

E.1　領域

E.1.1 地形地質遺産および保全

桜島・錦江湾ジオパークは100万年ほど前から巨大噴火を繰り返してきた活発な火山地域であり、現在も噴火活動を続ける活火山「桜島」を中心とした火山のジオパークである。桜島は 1955 年から 60 年以上もブルカノ式噴火を続ける世界で最も活動的な火山の一つで、桜島を取り囲む「錦江湾」は、火山活動によって形成された海である。錦江湾の湾奥部は「姶良カルデラ」と呼ばれる巨大な陥没地形であり、北東部の海底には現在も火山性熱水噴気活動を続ける「若尊カルデラ」という海の活火山が存在する。また、噴火活動を続ける桜島の約 4 km 先には、人口約 60 万人の都市が広がっており、世界的にも稀有な活火山と都市との共生が実現している。

このように、桜島・錦江湾ジオパークは多彩な火山地形を有し、桜島の噴火など日常的に火山の大地を体感できる場所である。桜島をはじめとする火山活動が、地形や自然、歴史、文化、産業、人々の暮らしに大きな影響を与えており、深くつながっていることから、「火山と人と自然のつながり」をメインテーマとしている。

また、このメインテーマを、地域住民や観光客にわかりやすく伝えるために、火山とのつながりを６つのストーリー（①地形・地質とのつながり、②自然とのつながり、③海とのつながり、④産業とのつながり、⑤歴史・文化とのつながり、⑥人とのつながり）で紹介しており、それぞれのストーリーに沿った 20 のジオサイトを選定している。

ジオサイトに設定されている箇所は、概ね遊歩道や展望台等が整備されておりアクセスは良い。大半のジオサイトは霧島錦江湾国立公園内にあり自然公園法で保護され、いくつかのサイトは史跡や天然記念物等に指定され保護されている。すべてのジオサイトで地域住民や行政により日常的なメンテナンスがおこなわれている。桜島焼や椿油の製造、桜島大根や桜島小みかんの栽培など、無形文化財についても地域住民や活動団体により存続の努力がなされている。

特に重要な地形地質サイト：

・城山

シラス台地の地形を利用して山城の居城を構えた鹿児島城の跡。国の天然記念物（植物、史跡）に指定。所有者（鹿児島市）による日常的なメンテナンス・清掃が行われている。

・溶岩なぎさ遊歩道

約 100 年前の大正噴火で流れ出た溶岩地帯の上につくられた遊歩道。岩干潟には、絶滅危惧種のハクセンシオマネキなどさまざまな生物が生息している。霧島錦江湾国立公園の特別地域（第 1 種、第 2 種）。所有者（鹿児島県）による日常的なメンテナンス・清掃が行われている。

・たぎり

若尊カルデラからの火山ガスが海面に現れている場所。サツマハオリムシの生息地（世界で最も浅い水深）、熱水噴出孔（チムニー）、レアメタル（アンチモン等）、酸性水塊の海等が海底にある。

・新島

江戸時代の噴火（安永噴火）の際、海底でも噴火が起こり、マグマが海底を持ち上げて（隆起して）できた島。隆起の際にできた断層も多くみられる。この島は新島軽石と呼ばれる水中火砕流堆積物でできており、16,000 年前の若尊カルデラの噴出物と推定されている。また、約 5,000 年前の貝化石層もある。霧島錦江湾国立公園の第 2 種特別地域。民間団体によって清掃等が行われている

・桜島口
大正溶岩によって桜島と大隅半島が陸続きになった場所。桜島側はクロマツの林、大隅半島側はタブノキの二次林で両者の植生が全く異なる。地質の違いを植生の違いで読み取ることができる。霧島錦江湾国立公園の第 1 種特別地域。所有者（鹿児島市）による定期的な施設等の確認が行われている。

指摘事項　有
　ジオサイトの全体の保全管理計画については本年度中の策定を予定している。また、現在のジオサイトは、エコサイト、文化サイト、ビュースポットが含まれている。現在、霧島ジオパークとの合併を視野に錦江湾域の垂水市、姶良市のエリア拡大を検討中ということなので、あらためてジオサイトの整理が必要である。

E.1.2 境界線
指摘事項　有
指摘事項：
　看板、出版物、WEB サイトには明確に定義されたジオパークの境界は示されていない。また、現在のエリア範囲はどのように設定されているのかについての説明もない。看板、出版物、WEB サイトにジオパークのエリアを明示する必要がある。

E.1.3 可視性（ビジビリティ）
　桜島にはジオパークのサインが多数あり、ジオパークであることがはっきり視認できる。
　市内の駅など主な観光のインフォメーションセンターでは、パンフレットが配布されており、案内員によりジオパークについて案内できるようになっている。
　パンフレットはトータルデザイン戦略に沿ったもので、内容は分かり易く、日、英、中（繁体・簡体）、韓の 4 か国語に対応している。
　WEB サイト以外にも、Facebook、Twitter、Instagram、SNS を活用した情報発信、鹿児島地域のイベント情報が集約されているアプリ「おむすび」に、桜島・錦江湾ジオパークのイベント情報を掲載している。同アプリに掲載することで、SNS で情報を収集する若い世代に対し、情報の周知が図られている。

指摘事項　有
　桜島では、ジオパークのエリアであることがはっきり視認できる。一方、市街地エリアでは、ジオサイトに解説板及びサインがあるのみであるため、ジオパークのエリアであることが感じにくい。市街地エリアにサイン及びジオパークのエリアを示した総合的な案内看板等の設置が望まれる。

E.1.4 施設・インフラ整備
　拠点施設である桜島ビジターセンターは、「NPO 法人桜島ミュージアム」が運営しており、学術的に桜島の事を解説しているだけでなく、地形や自然、歴史、文化、産業、人々の暮らしについても分かり易く解説している。スタッフも多数おり、ツーリズムの中心施設となっている。

桜島のフェリーターミナルには、桜島コンシェルジュセンターが設置されており、協議会事務局の国際推進員と学術推進員のうち１名を原則土曜日と日曜日、状況に応じて祝日やクルーズ船入港日などに配置し、ジオパークに関する詳細な説明や外国語対応を行っている。平日にもスタッフが常駐しており、どのように桜島をまわればいいのか常に情報を提供できるようになっている。

有村溶岩展望所レストハウスには、ジオパークを紹介するコーナーを設けており、県外の人にはあまり知られていない火山と共生する桜島の人びとの暮らしをイラストで分かりやすく紹介している。

その他、ジオパークの関連施設であるかごしま水族館、鹿児島県立博物館、鹿児島大学総合研究博物館、鹿児島市立科学館、桜島国際火山砂防センターにはサイン及び看板があるほか、各種イベント等が独自に実施されるなど協力関係を築いている。

指摘事項　有

事務局が観光部局にあることを活かし、質の良い情報・サービスを訪問者に提供できる環境が整備されている。また、事務局職員が窓口対応をしていることで、観光客や住民、観光事業者等の声を直接聞くことができ、案内機能やジオパーク活動の充実につながっていることが評価できる。

E.1.5 情報、教育、研究

看板、パンフレットはトータルデザイン戦略に沿ったもので、内容は分かり易く、日、英、中（繁体・簡体）、韓の 4 か国語に対応して、幅広い層の人々が理解しやすいものとなっている。

協議会を中心に教育分野では、小学 6 年生理科の「大地のつくりと変化」の副読本を地元の教員と協力し作成している。この副読本は、学習の指導要綱に沿いながら、地元の大地の成り立ちや恵み、桜島の噴火災害についてなど、地域の教育に即したものとなっている。この副読本は 2017　年度から全校配布し、市立小学校において授業で活用している。防災教育としてはクロスロードに似た、オリジナルの火山防災をテーマとしたカードゲーム「詮議」を市の防災関係部署や地域のまちづくり団体と連携し開発し、広く市民が参加できるようジオ講座や市政出前トークで実施している。

また、学校教育および社会教育ともに NPO 桜島ミュージアム、NPO かごしま探検の会、県立博物館，市立博物館等を中心に数多く実施している.

科学的研究は、主に地形･地質分野の研究が桜島を中心としてなされており、多くの学術論文等が発表されている。協議会委員または学術アドバイザーによる研究成果も多く、得られた成果や最新の情報等は火山活動の動向を中心に、行政だけでなくジオパーク活動に還元されている。

指摘事項　無

E.2　その他の遺産

E.2.1: 自然遺産

桜島・錦江湾ジオパークエリアは、市街地エリアと錦江湾の一部を除き、ほぼ霧島屋久国立公園錦江湾地域にあたり、自然公園法で保護されている。

指摘事項　無

E.2.2 文化遺産

ジオパークエリア内には、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成遺産の一部（旧集成館、寺山炭窯跡）が存在する。これらの遺産には、火砕流堆積物が使用されており、地形地質遺産が地域の文化の発展に深く関わっている例でもある。

文化財のジオサイトとして、「仙巌園（附　花倉御仮屋庭園　国の名勝）、石橋記念公園（西田橋　県の県指定の有形文化財）、黒神埋没鳥居（県指定の天然記念物）があり、関係団体により適切に管理されている。

指摘事項　無

E.2.3 無形遺産

当該エリアでは、桜島・島廻り節、小池島廻り踊りが無形遺産として市の文化財として登録されている。

指摘事項　有

現時点では、ジオパークとの連携はなされておらず、今後、どのような背景で成立しているか考察したうえで、ジオパークで活用される事が望まれる。

E.2.4 気候変動および自然災害への関わり

桜島は活動的な火山であり、桜島・錦江湾ジオパークは活火山と都市との共生がテーマとなっている。鹿児島市街地を含めたエリア内の地域住民は強く火山災害を意識している。ジオパーク活動推進の考え方として、観光・教育・防災・保全を「4 本柱」として一体的に取り組んでいる。

桜島ではハザードマップ、避難港、避難シェルター等整備されており、災害への備えに尽力している。特に、避難港は各集落にそれぞれ整備されており、避難訓練も定期的に実施されている。各研究機関とも連携しており、前兆現象の把握から避難までは迅速に対応可能であることが評価できる。

協議会は、関係各位と連携し、住民に対して火山の理解を深めるだけでない様々な防災教育を行っている。火山活動時はもちろんのこと平時から行政機関や民間観光事業者等が一体となって、桜島の活動状況についての情報発信に取り組んでいる。また、災害時の観光施設への情報伝達訓練の実施や外国人対応など、ツーリズム時の災害対応にも積極的に取り組んでいる。

指摘事項　有

火山災害が身近にある地域として、観光・教育・防災・保全を「4 本柱」として一体的に取り組んでいる。推進協議会が中心となり、災害時の観光施設への情報伝達訓練の実施や外国人対応など、ツーリズム時の災害対応にも積極的に取り組んでいる点は、他のジオパークのお手本となる取り組みである。

E.3　管理運営

当該ジオパークは、目指す目的や基本的方向を示すために、日本ジオパーク認定年の2013年4月に策定した「桜島・錦江湾ジオパーク構想」に基づき、ジオパーク活動を推進しているが、近年の国内外におけるジオパークを取り巻く環境の変化に対応するため、2016年3月に、新たな要素を盛り込んだ「桜島・錦江湾ジオパーク推進計画」（計画期間：2016～2021 年度）を策定し、活動を推進している。同計画では、観光、教育、防災、保全の「４本柱」に、国際交流・国際貢献を加えた５つの分野ごとに基本的方向と具体的取組を定めるとともに、それぞれ計画終期までの目標を設定している。また、年度ごとに進捗管理を行うとともに、状況の変化に応じ、適宜見直しを行っている。さらに、桜島・錦江湾ジオパ

ークの活動が鹿児島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の重点戦略（2015（平成 27）年度から 2019（平成 31）年度）として位置づけられており、鹿児島市が積極的にバックアップをしている。

推進協議会の予算は、25 年度 13,200 千円、26 年度 16,821 千円、27 年度 19,321 千円、28 年度 23,032 千円であり、主に鹿児島市の負担金によるものである。この中にはジオ活動費として NPO に委託している事業の費用も含まれている。協議会は自主財源の確保に努めており、協賛金やグッズの売上収入などの推進協議会の収入も毎年増加している。

管理運営組織は、鹿児島市および市内の各団体、市民団体等が連携して活動を行っている。鹿児島県や国の機関が推進協議会の委員に入っており、ジオパーク活動を協働で推進している。会長である市長は、ジオパークの推進をすることで、鹿児島の町の魅力や発展、町の魅力が高まることにつながっていくと考えている。ジオパーク活動の主軸となっているのは地元市民団体である NPO 桜島ミュージアムで、鹿児島市と共同でジオパーク活動を進めている。

学術的支援については京都大学や鹿児島大学の教員、等を中心とした学術アドバイザーを設置している。

事務局は鹿児島市観光交流局ジオパーク推進室で、2015 年 4 月に新設され、職員 3 名のほか、専門的な知識を有する学術推進員 1 名と英語対応を担う国際推進員 2 名の計 3 名の嘱託職員を配置している。なお、当ジオパークの事務局は、職員 6 名のうち、事務局長を含む 4 名が女性である。また、専門員は推進協議会の直接雇用ではなく、市の職員である。

指摘事項　有

鹿児島市はもともとジオパーク活動の素地があり、地元市民団体である NPO 桜島ミュージアムや NPO 法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会を中心に様々な活動がなされてきた。日本ジオパークに認定され、行政が深く関わるようになり、さらに活動が深化されている。

専門スタッフは 3 人で、国際推進員が 2 名いるのが特徴的である。しかし、すべて嘱託員である。ジオパーク活動は長期的に取り組むべきものなので、常勤専門員の雇用を考えてほしい。

E.4　重複（オーバーラッピング）

ジオパークエリア内には、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成遺産の一部（旧集成館、寺山炭窯跡）が存在する。共通の取り組みとして旧集成館、寺山炭窯跡、関吉の疎水溝の 3 か所などを巡る「ジオが育んだ近代化産業遺産ツアー」を実施し、溶結凝灰岩を用いた石の文化からジオパークとのつながりを紹介している。

霧島・錦江湾国立公園は、「国立公園満喫プロジェクト」の対象地域となっており、当該プロジェクトに係る桜島・錦江湾奥地域の鹿児島市域の事業については、ジオパーク推進室が所管し、市役所内の課や民間団体の意見集約・意見調整などを行っている。また、29 年度に日本観光振興協会ツーリズム等が主催するツーリズム EXPO ジャパン 2017 へ鹿児島自然保護官事務所と共同出展し、相互の情報発信を行っている。

指摘事項　有

世界文化遺産を所管する世界遺産推進室は、ジオパーク推進室と同局（観光交流局）内にあり、相互連携を図りやすい。また、霧島・錦江湾国立公園において、ツーリズムに関しての所管となっている。共に連携をとり、共通の取り組みを行っているが、さらにその価値をより深く理解してもらえるような取組の実施を協議していくのが望ましい。

E.5　教育活動

・科学教育・防災教育

協議会では、一般市民を対象としたジオ講座のほか、子供や親子を対象としたジオキッズ講座の実施など幅広い年代への社会教育活動を進めている。さらに、小学6年生理科の「大地のつくりと変化」の副読本を地元の教員と協力し作成している。この副読本は、学習の指導要綱に沿いながら、地元の大地の成り立ちや恵み、桜島の噴火災害についてなど、地域の教育に即したものとなっている。副読本は2017　年度から全校配布し、年間指導計画に位置づけて活用するように教育委員会から各学校へ文書において指導している。防災教育としてはクロスロードに似た、オリジナルの火山防災をテーマとしたカードゲーム「詮議」を市の防災関係部署や地域のまちづくり団体と連携し開発し、広く市民が参加できるようジオ講座や市政出前トークで実施している。

加えて学校教育および社会教育ともにNPO桜島ミュージアム、NPOかごしま探検の会、県立博物館、市立博物館等を中心に数多く実施している。

桜島地域の黒神中学校は、ジオサイト「黒神埋没鳥居」の側にあり、桜島の噴火の歴史などの情報発信を行っている。また、桜島に避難勧告等が発令された際に、自分の命を守ることだけでなく、地域の高齢者や外国人観光客の避難誘導の実施も想定した取組を行っている。桜島火山爆発総合防災訓練においては、外国語で作成したカードを見せながら実際に外国人の誘導を行った。これらの取組が評価され、安全功労者内閣総理大臣表彰を受賞している。

・環境教育

市環境保全課が本市の自然の魅力を広く周知することにより、貴重な自然を維持・保全するとともに生物多様性への市民の理解を深めることを目的として「かごしま自然百選」選定した。推進協議会では「かごしま自然百選」をテーマにジオ講座を実施し、エリアのジオ資源を含む本市の自然の保全等について周知を図っている。

かごしま環境未来館は、環境学習の取組の一つとして「地域まるごと共育講座」を実施している。講座の中には、桜島の溶岩と植物の観察やシーカヤックで行く錦江湾のビーチクリーン活動などのジオパークに関する活動も行われている。

指摘事項　有

学校教育に関しては、ほぼ小学校を対象としており、ジオパークの学習内容の体系化や実施体制の確立には至っていない。今後は、中学校や高校における展開が必要である。このため、さらに教育委員会と連携を図る必要がある。

E.6　ジオツーリズム

活火山である桜島は、知名度の高い優れた観光資源であり、多くの観光客が来訪している。そのなかで、ビジターセンター等の拠点施設の機能、ジオサイトのサイン・解説板、パンフレット、民間観光業者や団体等との協働などジオツーリズムの体制は、この4年間でさらに充実してきている。

桜島錦江湾ジオパークのツーリズムには、協議会が実施しているジオツアーのほか、関連施設や民間事業者等による多様なツアーや体験プログラム、遊覧船やカヌー、街歩きなどアクティビティがあり、それがジオパーク活動の中に活かされ、旅行者の受け入れ態勢も整っている。近年増加している外国人観光客への対応は、パンフレットや看板の整備、国際交流員の雇用など徐々に改善されている。

また、市交通局及びＪＲ九州株式会社において、桜島島内を巡る定期観光バスを運行している。ツアーでは、いくつかのジオサイトに立ち寄ることができるとともに、バスのアナウンスにより、桜島の噴火の歴史などジオパークガイドを聞くことができる。

桜島ではツーリズムと火山防災は密接な関係にあり、火山活動時はもちろんのこと平時から行政機関や民間観光事業者等が一体となって、桜島の活動状況についての情報発信に取り組んでいる。また、災害時の観光施設への情報伝達訓練の実施や外国人対応など、ツーリズ

ム時の災害対応にも積極的に取り組んでいる。桜島の主なジオサイトには、避難シェルター、避難誘導に関わるサイン等整備されており、災害への備えに尽力している。
　認定ガイドは現在 20 名おり、大人から若い人、経験豊かな人やチャレンジ精神旺盛な人までいてバランスがとれている。観光客の数を考えると決して多いとは言えないが、当該ジオパークはジオガイドの質を重要視しており、やみくもに増やさない方針である。ガイド組織はまだできておらず、今後の課題である。

指摘：有
　今後も引き続き、地域資源の活用に取り組むとともに、関連の深いグリーンツーリズムや世界文化遺産等と連携することで、さらなる地域経済の活性化を図ることが望まれる。

E.7　持続可能な開発

E.7.1 持続可能な開発に関する方針

　自治体、NPO など民間がそれぞれ連携し多種多様な、保全活動、教育、ツーリズム、防災プログラムを実施している。今後も継続した活動が期待できる.
　推進協議会の財政は、大部分は鹿児島市からの負担金であるが、参加の各団体等から事業協賛金・協議会負担金などの協力を得ることや、グッズ販売収入の拡充などで自主財源の獲得を目指しており、徐々にではあるが協議会の収入が増加している。
　「ジオ」という新しい観点から地域資源を捉え直し、桜島・錦江湾の恵みを使った新たなブランド「ジオの恵み」という新商品の開発を行って、鹿児島の新たな特産品の一つとなっている。この他にも、火山灰に宝石の元となる鉱物が含まれることから着想し、「空から宝石が降ってくる」をイメージした火山灰ジュエリー「tephra（テフラ）」や桜島の特産品である椿油と小みかんの精油を使用したハンドクリームの開発など、地域独自の商品が住民の手によって誕生している。

指摘事項　有
　自治体主導では難しい、フットワークの軽い活動が NPO 中心にあり、様々な意欲的な商品が生み出されている。

E.7.2 パートナーシップ

　ジオパークの協力団体がそれぞれ連携し多種多様な、教育、ツーリズム、保全活動、防災プログラムを実施している。　その中で、トータルデザイン戦略に沿った他の広報ツールとの統一性を持たせており、「桜島錦江湾ジオパーク」という統一されたプロモーション活動を行っている。
　イオンが発行する電子マネー「ＷＡＯＮ」と連携を行い、「桜島・錦江湾ジオパークＷＡＯＮ」を発行し、利用金額の一部を鹿児島市がジオパーク推進のための寄付金として受け入れている。
　以前より中心的に活動している NPO 法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会、NPO 法人桜島ミュージアムも引き続き活発に活動しており、推進協議会の委託事業だけでなく、独自事業も展開している。また、１月に１回、探検の会、桜島ミュージアム、事務局の 3 者で活動状況や今後の計画、委託事業の進捗状況などを話し合っている。

指摘事項　有
　保全、教育、ツーリズム、防災に関して、官民様々な団体で、ジオパーク活動を推進している。なかでも、探検の会、桜島ミュージアムはジオパークの中心的な活動団体となっており、事務局との連携も取れ、桜島・錦江湾ジオパークの大きな強みとなっていることが、評価できる。

E.7.3 地元コミュニティや先住民族の全面的かつ効果的な参加

桜島のエリアにおいては、2002 年に桜島の魅力再発見を目的に「桜島友の会」が結成され、その後 2004 年に活動してきた桜島の魅力再発見が公民館講座として発展している。この公民館講座から観光まちづくりとして「桜島ミュージアム」とイベント開催の「火の島遊ぼう会」に発展し、さらにこの二つの段階により着地型観光イベントや修学旅行の誘致のために「みんなの桜島協議会」が発足している。さらに、2015 年の噴火警戒レベル 4 への引き上げで広まった桜島に対するネガティブなイメージを払拭するため、NPO 法人桜島ミュージアムの呼びかけで地元の観光事業者や行政機関等が集まり、「桜島での今後の観光を考える会」が発足した。本会から、「桜島おもてなし隊」が結成されるなど地域を盛り上げる取組が進められている。本会は、現在、観光だけでなく様々な分野における桜島地域の振興を目的として「桜島を考える会」へ発展している。また、情報発信や外国人向けツアーなどの分科会が設けられ、具体的な活動を進めることとしている。

「桜島おもてなし隊」は噴火警戒レベル 4 の後に落ち込みを見せた桜島の観光回復を図るため、桜島港フェリーターミナル内で、観光客等にお茶やお菓子をふるまい、観光地の情報や特産品を紹介し、桜島の元気と安心を発信している。

桜島独特の農作物「桜島小みかん」「桜島大根」は畑がジオサイトとしてツーリズムに利用されているほか、地域住民や活動団体により存続の努力がなされている。

指摘事項　有

桜島・錦江湾ジオパークにおいては、住民の活動が発展しながら、ジオパークと大きくかかわっているところに特徴があり評価できる。

E.8　ネットワーク活動

全国レベルの各会合へコンスタントに参加している。

国際推進員は、国外のジオパーク等との交流や国際会議における発表資料等の翻訳を行う役割を主に担っている。また、JGN の国際連携ワーキンググループにおいて、GGN 定款や UGG パンフレットの翻訳作業に従事しているほか、JGN 主体の「アジア太平洋地域におけるジオパークネットワーク活性化に向けたキャパシティディベロップメント支援事業」にプロジェクトメンバーとして参画し、JGN へ貢献している。

指摘事項　有

国際交流員の JGN への貢献は評価できる。

E.9　地質鉱物資源の販売

指摘事項　無

E.10 防災・安全対策、防災教育、災害対応

桜島は活動的な火山であり、桜島・錦江湾ジオパークは活火山と都市との共生がテーマとなっている。鹿児島市街地を含めたエリア内の地域住民は強く火山災害を意識している。ジオパーク活動推進の考え方として、観光・教育・防災・保全を「4 本柱」として一体的に取り組んでいる。

桜島ではハザードマップ、避難港、避難シェルター等整備されており、災害への備えが進められている。特に、避難港は各集落にそれぞれ整備されており、避難訓練も定期的に実施されている。ジオサイト・拠点施設については平成 28 年度に、県観光課が、桜島ビジターセンター、烏島展望所、湯之平展望所、黒神埋没鳥居、有村溶岩展望所の 5 箇所に、火口か

らの距離や退避豪までの距離を記載した看板を設置している。各研究機関とも連携しており、前兆現象の把握から避難までは迅速に対応可能である。

協議会は、関係各位と連携し、住民に対して火山の理解を深めるだけでない様々な防災教育を行っている。火山活動時はもちろんのこと平時から行政機関や民間観光事業者等が一体となって、桜島の活動状況についての情報発信に取り組んでいる。また、災害時の観光施設への情報伝達訓練の実施や外国人対応など、ツーリズム時の災害対応にも積極的に取り組んでいる。具体例として、噴火警戒レベルが 4 に引きあげられた際には、ジオパークの国際推進員が桜島フェリーターミナルで直面した課題を元に、関係機関の職員と連携し、多言語の掲示物作成を行うなど、ジオパーク職員の特技を生かし活動が行われている。

指摘事項　有

火山災害が身近にある地域として、観光・教育・防災・保全を「4 本柱」として一体的に取り組んでいる。推進協議会が中心となり、災害時の観光施設への情報伝達訓練の実施や外国人対応など、ツーリズム時の災害対応にも積極的に取り組んでいる点は、他のジオパークのお手本となる取り組みで評価できる。

F.　総括

2013 年に日本ジオパークネットワークへの加盟が認定された桜島・錦江湾ジオパークは、現在も噴火が続いている活火山桜島と都市との共生がテーマとなっている。日本ジオパーク認定時に指摘されていた、記名サインや説明板などの看板の整備、認定ジオガイドの養成、専用 WEB サイトの作成などの課題については、今回の再認定現地審査の中で着実に改善され、それ以外の項目についても成果を上げられていることを確認することができ、桜島・錦江湾ジオパークが、ジオパーク活動を着実に進展されている状況が認められた。

NPO 中心に進められてきた活動は、事務局体制が整備されるに伴い、さらに深化され、ジオツーリズムの実践や、教育活動、火山災害情報の情報発信などについて、量、質共に向上している。特に事務局が観光部局にある強みを活かしたツーリズムの環境整備、連携は高いレベルにあり、更なる発展の可能性もある。このような中で桜島ではジオパークに対する住民の意識が非常に高まっている。また、桜島・錦江湾ジオパークで実践されている協議会と NPO の連携、火山防災への取り組みは各ジオパークの参考になるものである。

市街エリアの活用、ジオパークエリアの不明瞭さ、ジオサイトの分類の再検討、ガイド団体の整備など課題はあるが、霧島ジオ―パークとの合併に向けた動きの中で改善される体制にある。今後は桜島錦江湾ジオパークの長所をなるべく活かすような合併に向けての活動を期待する。

G.　指摘事項

・提案：グリーンカード

指摘事項１

ジオパークのエリアは検討中であるが、霧島との合併などを考慮して早急に結論をだすこと。

特に市街地におけるジオパークのエリアがわかりづらい。

指摘事項２

ジオサイトの分類を再検討し、より明確なジオサイトの分類を構築すること。

指摘事項３

ガイドの質を担保する仕組みはできているが、ガイドの運営組織をつくることは現在進行中であり、今後の課題でもある。

指摘事項４
中学校・高校教育への関わりが見えてこない。中学・高校あるいは生涯学習を見据えながら市民全体にジオパークの知名度がいきわたるような工夫、取り組みを検討すること。

指摘事項５
霧島との合併後、どのようなジオパークをつくるのか、あるいはトータルデザインをどのようにするのか十分に検討すること

H.　行程表

現地審査視察内容・場所	主な対応者	気づいたこと／コメント
１日目(年月日)		
(簡単なタイトル・写真) 概況説明（市役所本館２階特別会議室） ・４年間の取組について ・学校教育への展開 ①副読本について ②大学との連携について □桜島コンシェルジュセンター □湯之港 ・桜島の暮らしと文化について ・避難港	会長　森　博幸（鹿児島市長） 岩井　香奈※１ 岩切　敏彦※3 中野　佑美・篠原　愛依※4 岩井　香奈※１ 大村　瑛※2	市長：ジオパークは重点戦略。誰が市長になっても鹿児島市はしっかり進めていく。 ・現場教員の意見を踏まえて作成 ・鹿児島大学のインターンシップとしてジオに係る。１年の地域の仕事を学べる授業の一環。 ・コンシェルジュセンターは、フェリーを降りてすぐに目に着く場所にある。 写真：実際多くの人が利用している ・島のくらしについて実例を交えた分かりやすいガイド ・「西桜島」「東桜島」地形の違いと水の関わり。西桜島は扇状地。東桜島は溶岩。そのため「東桜島」の集落では水の獲得が重要。雨水タンクや井戸の利用。かつては水を運ぶ時、女性が頭にのせて運んでいた。 ・桜島に各集落にある避難港がある

□島のかあちゃんおもてなし隊 ・おもてなし隊について 	古殿　紀章※1 吉田要、横道ひろみ、中野孝子、山口沙織、 山下登史江※5 福島大輔※1	・出発は桜島友の会（2002 年）。噴火警戒レベル 4 の際「桜島の観光を考える会」、そして「島のかあちゃんおもてなし隊」へ ・おもてなしイベントを開催。お弁当は好評。 吉田氏：この活動を儲けられるものにしなくては ・若い人のアイデアが実際に商品となっている。
□桜島ミュージアム ・商品開発等について ①桜島まるごと絵本 ②tephra、椿ハンドクリーム	鮫島　琴恵※6 久木田智美	・非常に目を引くパフォーマンス。
□桜島ビジターセンター ・灰グラフィティについて ・ＰＲ映像視聴 ・溶岩ミニトレッキング 	植村 恭子※2 姥　千恵子※7 旨田裕美、今井俊子、大村	・ただ聞くだけでなく、楽しませるガイド （写真：フランスパンを使用した溶岩の冷却時のひび割れの説明） ・軽石の軽さを実感 ・これからガイド団体を作りたい。 ・ガイドの質にこだわっていきたい。 ガイド：スキルアップの為の補助があれば（例えばフェリー代や駐車場代の補助）

・認定ジオガイドの取組について	瑛、高田昌志、 一氏利昭、姥千恵子※7 植村恭子※2	
２日目（年月日）		
□レインボー桜島 ・ジオパーク宿泊体験プランについて	篠原　　臣※８	・非常に多くのジオパークを利用した取り組みがある。 篠原氏：今後、ジオパークの出前講座を職員で受けて学習していきたい。
□桜島口	片平　雅人※1	・ジオサイト用の駐車スペースを整備
□黒神埋没鳥居 ・スタンプラリーについて ・黒神埋没鳥居、１００年椿、黒神中学校の取組について	高田昌志※7	・桜島の溶岩をミニ桜島模型で解説。 ・大正噴火では、村長が、気象台が「噴火は大丈夫」といったことを信じ、村民を非難させなかった。その負の教訓を忘れないために鳥居を残した。 ・黒神中学校の取り組み。ジオサイトの清掃。中学生が非常に立派な解説板を作成している。 ・大正噴火の際、溶岩がすぐそばまで来ていたのに生き残ったツバキがある。
□新島 		・桜島安永噴火の際、隆起してできた島。縄文海進期の貝層がある。
□昼食（カフェしらはま） ・ファームランド櫻島の取組について 	室屋　　智美※9	・桜島大根の収穫体験をやっている。 ・昔からの農法で、カジメを肥料に ・桜島大根はここでしか大きくならない ・昼食は地元のものを使用したカフェプレート

□火の島めぐみ館 ・克灰住宅について 	永野京子※10	・様々な降灰対策。灰が集まる側溝、洗濯の為のサンルーム。 ・県営と市営の住宅がある。空室が多い。
□桜島フェリー ・ジオパークと連携した取組について	大嶺繁徳※1	・桜島フェリー主催のイベントクルーズはイベント内容や装飾品を含めジオパークと密接に連携している。 ・フェリーの中で様々なワークショップを開催 ・よりみちクルーズ体験パスポートは市内の小学校全員に配布
□防災カードゲーム「詮議」（市民福祉プラザ２階消防会議室）	古殿紀章※1	・詮議は、個人の行動を選択する問題で、災害時の状況判断だけでなく、市の防災計画や避難計画の周知、過去の災害を例にした問題を作成している。